出来事ファイル（№23－12）

■こうべ相生橋フェス

あいあいネット神戸代表 木村 由巳子

第3回デゴイチまつりは、ハーバー懇談会と一緒に「こうべ相生橋フェス」として拡大開催となりました。車両通行止めの許可をいただいて、車道にステージを設置し、ホコ天の中で、デゴイチブライダルと銘打って、人前結婚式も執り行われました。

いつものようにミュージシャンのステージの他、フリーマーケットやマルシェ、鉄道グッズ販売や飲食ブース、スタンプラリーもあり、盛りだくさんでした。

明治7年、神戸-大阪間に鉄道が開通し、鉄道の上に木造の陸橋（跨線橋）「相生橋」がかけられ、市民は橋の上から蒸気機関車を見物したそうです。昭和6年の高架化で、相生橋は取り払われました。デゴイチ横の高架下で、神戸D51ーPARKと名付けられ、キャンプとBQQが出来る所として賑わっているあたりが相生橋のあった場所なのです。

5月に「よ～いどん」のまどかさんが撮影に来て下さって、私と守る会の代表飯野さんは「人間国宝」になりました。それからでしょうか、デゴイチ君はますます有名になってきて、地域の皆様の目にとまるようになり、写真もよく撮っていただいています。

6年前、HDCと神戸駅の間の通路が震災ででこぼこだったのを「何とかして欲しい」ともとまちタウン協議会の事務局の岩田さんとJR西日本大阪本部に陳情に伺ったことが始まりです。デゴイチを見に来てくれる子供達の足元、ベビーカー、高齢者や車椅子の心配でした。おかげ様で、半年後には、歩きやすい道に整備して頂きました。

神戸新聞にデゴイチが掲載された記事を読まれたライオンズクラブOGが、後押しをして下さって、D51がきらら公園に来た頃のライオンズクラブのニュースレターのコピーを取り寄せて下さり、情報が集まりました。

これらの沢山の方々との出会いとご縁、「守る会のボランティア」の皆様のおかげで、今、デゴイチがこんなに美男子で保存されています。

神戸駅前のD51が新橋のC11に負けない地元のアイドルになりますように、これからも励まし、ご支援をお願いします。

■もとまちハーバークリーン作戦

11月1日（水）正午12時から、エスタシオン・デ・神戸から9名、ネッツトヨタ兵庫・あいあいネット神戸から25名、神戸ベルコから7名のみなさまが、ハーバーロード周辺・きらら広場のクリーン作戦を実施しました。

毎月、第1水曜日12時より、地域の企業様有志で実施しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。

エスタシオン・デ・神戸のみなさん

ネッツトヨタ兵庫株式会社
あいあいネット神戸のみなさん

株式会社神戸ベルコのみなさん

□読者プレゼント

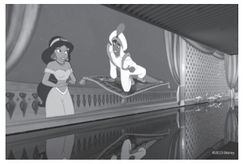
観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

三露千鈴《化粧》大正後期
大阪中之島美術館【後期展示】

◎決定版！ 女性画家たちの大阪

会場：大阪中之島美術館 4階展示室
会期：2023年12月23日（土）～2024年2月25日（日）
時間：10:00～17:00（入場は16:30まで）
＊2月10日～25日の期間は10:00～18:00（入場は17:30まで）休館日：月曜日（ただし2024年1月8日、2月12日は開館）および2023年12月31日、2024年1月1日
問合先：06-4301-7285　大阪市総合コールセンター

◎ディズニー・アニメーション・イマーシブ・エクスペリエンス



東京での会場風景（大阪とは演出が異なる場合がございます。）

会場：堂島リバーフォーラム
会期：2023年12月2日（土）～2024年2月18日（日）
時間：平日11:00～19:00、土日祝・年末年始10:00～20:00
＊年末年始開館は2023年12月28日（木）～30日（土）、2024年1月2日（火）～3日（水）入場は閉館の60分前まで
休館日：2023年12月31日（日）、2024年1月1日（月）
問合先：0570-200-888（キョードーインフォメーション）

◎日本の切り絵 7人のミューズ

会場：神戸ファッション美術館
会期：2023年11月18日（土）～2024年1月28日（日）
時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）
休館日：月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）、2024年1月9日（ただし1月8日（月・祝）は開館）
問合先：078-858-0050

神戸元町商店街 楽市楽座情報 12月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー（無料） TEL361－4523

12月 7日（木）～12月10日（日）KOBE＊HART FOTO倶楽部　写真展scene2023
12月14日（木）～12月19日（火）
関西学院大学文化総部写真部×甲南大学文化会写真部　合同写真展

◇元町映画館（有料） TEL366－2636

11月25日（土）～12月 8日（金）
鈴木清順 生誕100年記念『SEIJUN RETURNS in 4K』・『沈黙の自叙伝』
12月 2日（土）～12月 8日（金）『1%の風景』・『シンデレラガール』
12月 2日（土）～12月15日（金）『ゴーストワールド』
12月 9日（土）～12月14日（木）
『愚鈍の微笑み』／『やぶからぼうに笑え』※2作品日替り
12月 9日（土）～12月15日（金）『ガザ 素顔の日常』・『大阪カジノ』
12月 9日（土）～12月22日（金）『ふまじめ通信』
12月15日（金）『フライガール』
12月16日（土）～12月17日（日）劇場版『 センキョナンデス』
12月16日（土）～12月22日（金）『アフター・ミー・トゥー』・『モダンかアナーキー』
12月16日（土）～12月25日（月）『朝がくるとむなしくなる』
12月16日（土）～12月30日（土）『NO選挙, NO LIFe』
12月18日（月）～12月25日（月）『シン・ちむどんどん』
12月23日（土）『まっぱだか』
12月23日（土）～12月25日（月）『Smoke』・『この恋は終わってる』
12月24日（日）『きょう、映画館に行かない?』
12月25日（月）『アキレスは亀』
12月26日（火）～12月30日（土）『ハッピーアワー』
【予定は変更になる場合がございます。】

栄町通クリーン作戦中止に

11月10日（金）の栄町通クリーン作戦は、雨天の為中止になりました。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

みなと元町 タウンニュース
TOWN NEWS
発　行：みなと元町タウン協議会　住　所：〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内　発行人：奈良山喬一　編集人：岩田照彦　電話・FAX：078－391－0831

こうべ相生橋フェス大盛会！ D51広場再整備が実現へ

合資会社ゼンクリエイト　根津　昌彦

2023年10月29日（日）晴天、やや風強し。みなと元町タウン協拡大エリアに関するまちづくり構想案を本年7月に神戸市に提案した後、ハーバーロード・ワーキングにて最初のエリアPRイベントとして企画・開催したのが、「こうべ相生橋フェス」でした。

このイベントの一番の目的は、構想の中で描いたJR神戸駅と元町商店街を結ぶ2つの動線の強化にあたり、まずはこの地域の人に街を回遊していただきながらエリアのポテンシャルを認知していただくとともに、D51前広場の再整備や旧・居酒屋源平跡の遊休地の地域への開放、さらにはきらら広場の再整備につなげるため、こんな使い方ができるということをイベントを通じて示していこうというものでした。

D51前では過去2回にわたり、神戸駅前のD51を守る会の方々が、音楽やフリマイベントを開催されていましたが、今回はこうべ相生橋フェスとの共催のカタチで、D51前イベント特設会場で一部時間をお借りして「屋外ウエディング企画」をさせていただくこととなりました。

またエリア認知の仕掛けとしては、更なる活用が期待される5か所のスポットを巡るスタンプラリーを企画し、5か所すべてを回ると元町商店街ゆかりのグッズをプレゼントするという、エリア内のマンションなどにお住いのお子様連れのご家族に楽しんでいただくことを意識した内容としました。

イベントタイトルに「相生橋」という名前を加えたのは、現在のJR神戸線が高架化される前、JRが平面を走り、人と車と市電が鉄道線の上を跨ぐ「跨線橋」によって南北を行き来してた、その歴史ある橋の名前が今回の拡大エリアを一言で言い表すに相応しいということになったためです。

写真1 こうべ相生橋フェス

本稿の書き出しの通り、イベント当日はきれいに晴れ上がり、D51前特設ステージでの屋外ウエディング企画を行うのに最高の天気となりました。このウエディング企画は、ハーバーロード・ワーキングに参加しているメンバーの特色を最大限に発揮した、私たちにしかできない企画でした。新郎新婦の衣装レンタル・車での送迎などをエスタシオン・デ・神戸様、新郎新婦ペア宿泊券をホテルジュラク神戸様より提供いただいたほか、新郎新婦の人前式の司会をD51まつりの司会を務める谷口享子様の協力を得ることができました。

午前11時40分、白のタキシードとウェディングドレスを纏った新郎新婦が車できらら広場に到着すると、参列されるご親族ご友人らから、「綺麗！」「おめでとう！」という声が次々に上がりました。通りがかった人も、今日はいったい何があるの？という顔つきでキョロキョロしながら、目の前を通る新婦の姿にうっとりされたりと、まずは狙い通りの反応があちこちで見られました。

その後、新郎だけが誘導スタッフに導かれ、国登録有形文化財である松尾ビル（旧小橋屋呉服店神戸支店）の屋上へ。屋上にはレッドカーペットか敷かれ、その先には白とピンクの風船を飾った特製のゲートがあり、屋上からきらら広場にいる新婦に向かって新郎から愛のメッセージが叫ばれました。コロナ禍で結婚式を挙げることができなかった間の感謝と愛の言葉を大声で伝えた新郎でしたが（写真2）、きらら広場で聞いていた新婦には十分に届かなかったようで、「聞こえへーん！」の新婦の叫びがまち一杯に響き渡り、一同大爆笑。きらら広場に下りてきた新郎からあらためて、新婦に愛の言葉を叫んだのでした。（笑）

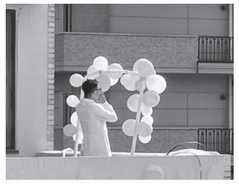


写真2 松尾ビル屋上で愛を叫ぶ新郎

その後、D51前特設ステージに移動し、ご親族ご友人の他たくさんのギャラリーも見守る中、柔らかな優しいまなざしに包まれて、誓いの言葉、指輪の交換、誓いのキス、ご夫婦署名立会人署名・結婚宣言と進み、無事人前式を挙行することができました（写真3）。新郎新婦のお二人、どうぞ末永くお幸せに！

写真3 D51前での人前結婚式

午後からは、スタンプラリーを回られた子どもたちが次々と受付に来られて、携帯電話のWEBサイト上で集めたスタンプを提示してもらった後、特製グッズをプレゼント。受け取られたお子様方はみんな笑顔で大満足でした。

一緒に開催したD51まつりも神戸駅前のD51を守る会の皆様の素晴らしい連携、演奏を披露されたアーティストの皆様もD51を愛し、D51前で演奏できる喜びを全身で表現された熱演が続き、大いに盛り上がったステージであったほか、高架下でのフリーマーケットも鉄道ファンにとってはたまらないグッズが並べられていたりと、販売スタッフも購入者もコアな会話に華が咲いたひと時でした。

イベント終了後、撤収を終えて、デゴイチカフェに集合したスタッフで記念写真をパシャリ（写真4）。一人一人のお顔は、充実感に溢れた表情で、互いの頑張りを労いながら、再会を約束して解散いたしました。

約1か月後の11月22日（水）、神戸駅前広場の使い方を考える会第2回南分科会が開催され、こうべ相生橋フェスの開催報告をもとまちハーバー懇談会古賀野会長よりご報告をと思っていたところ、目を見張る内容の報告が神戸市建設局駅前魅力創造課よりありました。その内容は、「交通量が少ないD51前の道路は、市営駐車場の通路機能を確保したうえで、歩行者専用道路化し、D51やJR高架下スペースと一体となった広場空間への再整備を検討しています」と。神戸市が本腰を入れて検討してくれることが明らかになり、出席していた古賀野さん、片山喜市郎さん、小生の3人は顔を見合わせて、ニヤリとしたのでした。

写真4 イベントを支え盛り上げた出演者・スタッフ

海という名の本屋が消えた（121）

平野義昌

西村旅館（13）

西村貫一が雑誌「アンティーク」参加中のこと。友人が西灘村の別邸を訪ねると、貫一は園芸に勤しんでいる。

〈「この日光と、この球根と、苗木を見たまえ。この匂いどうや君……おれはこれをやめられん」。実際蹲んで土いじりしている彼の背中には太陽がサンサンと降りそそぎ、日を経て、充実して来た花壇のかぐわしさが原稿督促者に無言の抗議をつきつけていた。〉註1

夫人の叱言よりも日光が「この気難しい紙魚の外套をぬがせ」、書斎から引きずり出していた。肥料用の馬糞集めや植物の成長に喜びを見出している。註1

〈……中世の匂いの多分にあった雑誌「アンティーク」など消えてしまっても不足はなかった。〉註1

「アンティーク」（1918年12月号）「爛言長語」で貫一は、読みたい本が溜まる、編輯の多田が貫一のページ数を決める、「読まねばならず、創作せねばならず、書かねばならぬ」と愚痴をこぼす。これまでは書き溜めていた文章があったのだが、余裕がなくなった。月刊雑誌の多忙だろう。同じ文章で刊行半年を経ての販売成績を誇る。註2

〈「三年は売れまいぜ」と云って居たのに、どうした風の吹き廻しか、毎月なかなかに売れる。本屋の主人の話に今迄神戸で発行した雑誌で、二十円以上も毎月末の勘定を支払った事なんかはてんでありません。（後略）〉註2

同人誌として好調だったのだろう。1919（大正8）年5月号で次号から社会欄を設けると予告したのに、6月号で突然休刊を宣言する。

〈社告　真面目になると恐怖心を力強く与えます。もういい加減な道楽染みた事は言えなくなって来ました。（中略）私達は思切ってもっともっと勉強します。そして思切って此の雑誌を一時休刊いたします。永らく御愛読を乞うた事を深く感謝し、そして来る可き此の雑誌の充実したる再来を大いに期待してください。（後略）〉註3

『西村旅館年譜』（以下『年譜』）に、

〈貫一は嫌や嫌や引き摺られ、後自信を得たのであります。潁川君に厚く感謝すべきであります。／註　彫刻家水谷鉄矢は客員、猶同雑誌は十二冊発行満一ケ年にて潁川君の申出にて止むなく廃刊す〉註4

この最終号に貫一は「小犬の死」を寄稿。猟犬2頭と散歩がてら花屋に行く。途中百姓家の小犬の死を見る。首輪が合わず窒息した。

「アンティーク」は芸術・文学論が主体であるが、この号では、生悦住清（いけずみ・きよし）「全て現実なるものは合理的なり――葺合新川貧民窟訪問記」を掲載。社会問題に踏み込んだ。巻末に38社（店）が広告出稿。

雑誌に「潁川」の名は出たことがない。ペンネームで書いているのだろう。貫一の「自信」は雑誌編集・発行か、自分の文章力か？　それにしても「嫌や嫌や引き摺られ」の言には首をかしげる。

貫一は翌20（大正9）年7月から21（大正10）年春にかけて新婚旅行に出て、帰国後ゴルフを始める。その熱中ぶり以前記したとおり。先の友人がしばらくぶりに訪問すると。

〈……ベランダで、クラブのハンドルに巻いた皮紐を盛んに巻き直しては秤にかけて改造に余念のないKを見た。訪問者の顔も見ず、話しかけてもろくに返事もせず最早や彼の二十四時間が完全にゴルフになっていた。〉註1

26（大正15）年9月、貫一は雑誌「書物禮讃」9月号（京都杉田大學堂発行）に随筆「蔵書標」を発表。同誌は京都帝国大学教授・新村出（しんむらいづる、1876～1967年、言語学者、『広辞苑』編纂者）を中心にした書物愛好雑誌。執筆者には、鈴木大拙、江馬務、潁原退蔵、内藤湖南らビッグネームが並ぶ。貫一は同誌の利益を求めない姿勢を褒め、神戸の本屋仲間にも道楽半分の仕事を期待する。ちょっと無責任である。

貫一の「蔵書標」（蔵書票）は古書に付されたEx-Librisの話。戦後の雑誌「金曜」に貫一所有の蔵書票を掲載している（写真）。蔵書票に興味を持つきっかけは、1913（大正2）年の欧州旅行中、ドイツのボンの文具店でのこと。見本帖にある美しいデザインのEx-Librisを注文したが、店の主人は応じてくれない。同市の著名な貴族のものだった。

26（大正15）年8月ひと月、貫一は六甲山で昼はゴルフ、夜は読書で過ごす。本は良寛。そのなかの良寛筆「今吾が家にあり」を「純日本製のEx-Libris」だと喜ぶ。内外のユートピア論や読書論を語り、神戸在住のイギリス人愛書家の話（本稿114号で紹介）で締めくくる。文中で貫一は「トルストイに会った時貴方の蔵書のEx-Librisはどんなのですかと尋ねることを忘れました」と記す。しかしながら、トルストイは1910年に死去したゆえ、貫一は会えていないはず。文豪の次男が16（大正6）年来日し、西村旅館に宿泊しているので彼のことだろう。註5

ゴルフの合間も貫一の文化活動は継続。25（大正14）年には知識人講演会を始める。28（昭和3）年11月、神戸市立図書館の御大典祝展（昭和天皇即位奉祝事業）に「蔵書標」を出品。同年12月、東京華族会館の泰西美術展に所蔵絵画を出品。この時ジャーナリスト・町田梓楼から出版社・白水社に援助を要請された。同社はフランス語辞書を出版するも報われず困窮していた。貫一は絵の売上金を寄贈した（註4）。この辞書は『白水社和佛辞典』（丸山順太郎著、昭和2年）と思われる。

『年譜』に同年5月雑誌「書物の趣味」に蔵書標随筆を寄稿とある。国立国会図書館デジタル資料を検索すると「書物の趣味」（昭和2～7年まで全7冊）が出る。その「第一冊」（昭和2年11月）には、新村出「書物芸術上のキリアム・モーリスと本阿弥光悦」、内藤湖南「蔵書家の話」、新村「日本吉利支丹版本の回収」、寿岳文章「ブレイクの『彩飾本』由来」、伊藤長蔵「欧洲最古の活字本」など。貫一は創刊号から寄稿している。発行所は京都の「書物の趣味社」、発売元は神戸市明石町「ぐろりあ　そさえて」、編輯兼発行人・伊藤長蔵（書物の趣味社）、印刷所・神戸市江戸町「田中印刷所」。300部発行、定価1円20銭。執筆陣は「書物禮讃」同様、新村他京都帝大人脈。書名も新村による。宮崎修二朗の記述より。

〈……大丸東側の道を南へ下ってみた。商船ビル浜側に、神戸文化史上特筆されていい出版社「ぐろりあ・そさえて」があったことを思い出したからだ。昭和二年ここに発足した同社は、加古川市出身の素封家の次男伊藤長蔵によって創められ、寿岳文章編『ブレイク書誌』や土方久徴（引用者註、ひさあきら、銀行家のち日本銀行総裁）らの訳『開国逸史アメリカ彦造自叙伝』、また雑誌『書物の趣味』など、一連の香り高い出版物を送り出した。（後略）〉註6

その後、伊藤は東京に拠点を移す。伊藤についてはまたの機会に。

貫一「Solioquy on Books（第一回）」。「書物独語」と訳せばいいのか。伊藤から手紙で執筆を依頼された。ブックハンターのラブストーリーの様なものを書いてみる、と前置き。

第一次世界大戦後のこと、彫刻家・水谷鐵也のアトリエに美術家たちが集まり、美術論から読書論。そこに青年が本を見せてほしいと水谷を訪ねて来た。水谷は了承したが、同席の岩村透（東京美術学校教授）が青年から本を取り上げて叱る。他人の本を見せてもらう時はまず手を洗え、本に対する礼儀を解せよ、と。青年は驚いて帰って行った。本に対する思い、岩村の言についての感想はそれぞれ違うだろう。貫一はあまり付き合いのない文化人宅を訪問することを好む。

〈一人の人間を早く知るには其人の家を尋ねる事が一等の早道です。そうしてlibraryに入れば一層明白に解ると云うものです。（中略）一冊の本に対する態度で其人が解ると云うのは大変面白い事だと思いませんか。〉註7

貫一宅には西洋の古書店から本が届く。愛書家の蔵書票を見て、健在の人なら会ってみたいと思う。本は読むことが目的だから貧弱・安直な編集・体裁で満足するのも一考。しかしながら、限定本を手に取り、紙質・活字・製本など吟味し、さらに著者署名本を探して読むことも「又格別なもの」。入手した署名本や木活字本、古書に敬意を表す。註7

「書物の趣味」第二冊は28（昭和3）年5月発行。部数は350部、定価1円20銭。新村「伊曾保行脚」、潁原「近世の文藝に描かれたる長崎」、伊藤「アツシエンデネプレスのドンキホーテ」など。貫一は「Ex-librisに表れたる言葉に就て（第一回）」寄稿。蔵書票、蔵書印などの文言を紹介。日本のものでは、女色のために売るな、酒に換えるな等、軟らかい道徳。また天、心、命など堅い東洋思想も。ヨーロッパだと神の御栄、キリスト云々。貫一蔵書には「一度目に止まったが最後買わないと其思った本は二度と目にかからぬぞ」という箴言がある。古本屋の広告にぴったりだと思うが、古本屋は「そんな珍らしい本を吾々は取引してませんぜ」と言うかも、と皮肉をまじえる。

註1　リヒアルト・ケー・ライフ「Kの田園生活」（『へちまと十年』へちまクラブ、1956年）
註2　「アンティーク」1918.12月号
註3　「アンティーク」1919.6月号
註4　西村貫一『西村旅館年譜』自費出版　1980年
註5　「書物禮讃」1926.9月号
註6　宮崎修二朗『環状彷徨』　コーベブックス　1977年
註7　「書物の趣味」第一冊　1927年
2.3.5.7は国立国会図書館デジタル資料を閲覧。
引用文は適宜新字・新かなに直した。
写真　19世紀末イギリス俳優エレン・アリシアの蔵書票。「金曜」第40号（へちまクラブ、1952年）より。

みなと MOTOMACHI ケンチクさんぽ vol.29

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会　地域まちづくり委員会

「ケンチクさんぽ」の楽しみ

先日、9月30日をもって元町駅地下の「有楽名店街」が多くの人に惜しまれつつ、76年の歴史に幕を下ろしました。このニュースに接し、元町駅に地下街なんてあった？と思われた方も少なからずいたのではないでしょうか。かくいう私も、2001年から当地で設計事務所を営んでいるにも拘らず、この地下街を発見したのは2015年、実に14年もその存在に気付かずに元町駅を利用していました。発見した時の衝撃、愉悦はすさまじく、以来多くの人とこの地を訪れ、その昭和感あふれる存在を、そのレトロな魅力を語り合いました。

ケンチクさんぽの楽しさは、有名建築や歴史的建造物を見るだけでなく、普通の街角にある、ちょっと変わったもの、不思議なものを発見するところにあったりもします。

1970年代頃からの建築史家、建築家の藤森照信さんや博物研究家の荒俣宏さんらの建築探偵、路上博物、観察の活動は多くの書籍になり、街や建築の楽しさを私たちに教えてくれています。

今回は、元町界隈のちょっと面白い建築や空間をお伝えしたいと思います。このタウン誌の読者の方には、これらの建物の関係者もおられるかもしれませんが、街並み好きの戯言と笑っていただければ幸いです。

細いビル

このビル、とても細いです。この手のビルは建築探偵モノではよくでてきますが、なかなかこのレベルのものは珍しいと思います。どうやって使っているのか、どうやって上階に上がるのか、2階、3階の外壁に面した扉はなんなのか？興味はつきません。

隣の建物が建て替わって見えにくくなったのですが、以前は見えていた横の壁面が選挙の時のポスターを貼る板でできていたのも萌えるポイントです。

素敵な消火栓蓋

マンホールの蓋は路上観察の鉄板ネタです。神戸にも素敵な蓋がいろいろありますが、他都市で見かけるカラー塗装の蓋は少ない印象です。

むしろ、みなと元町界隈を歩いてみると、黄色く塗られた消火栓の蓋の方が魅力的です。鉄色と黄色のコントラストも美しく、神戸の名所を表したデザインも秀逸です。

そして南京町にある排水溝の蓋は、写真では分かりにくいですが、少し中華風デザインで素敵です。

どこに車が？立体駐車場

この立体駐車場、車を入れると上方に収納されていくタイプなのですが、見上げると上階にはお店の窓が・・・。以前は麻雀店だったと思いますが。

いったい車はどこにいってしまうのか???マジックのような駐車場です。

マジックのタネはわかってしまうと楽しくないので、あえて答えを探さず、この道を通るたびに、いろいろ想像しながら眺めるのが楽しいのです。

レトロなストリートファニチャー

みなと元町界隈の街灯は、文明開化のモダンな雰囲気を表すためなのか、ガス灯風の街灯が多くみられます。バナーを取り付ける金物がついているタイプのものもあり、街の風景を素敵に演出しています。

そして南京町の街灯はやっぱり中華風。楽しすぎます。。。

以前のコラムにも書きましたが、もやい杭風の車止め。可愛すぎます。。。

神戸の街並みは、文明開化期の明治、明るく楽しい大正、生気溢れる昭和期の様々な街並み、建築、モノが混在して残っており、探検しがいがあります。

特にみなと元町の辺りは、王道の老舗が並ぶ商店街、かつての豪壮なモダン建築が残る栄町通、海岸通、裏道が楽しい乙仲通界隈、個性溢れる南京町、さらにその周辺部にハイセンスな旧居留地、今後が楽しみなモトコー、高架下商店街、メリケンパークやハーバーランド、開発の続く港湾部、見どころ、歩きどころ満載です。

開発、再開発のはざまで、ちょっと取り残されたところに、街歩きの楽しみがあったりします。神戸の街の発展を願いつつ、あまり綺麗になりすぎないようにと、ヘンな望みをもちながら今回はこれで終わりたいと思います。

山岡 哲哉（やまおか てつや）
株式会社山岡哲哉建築設計事務所 代表
2001-乙仲通の栄町ビルディングにて建築設計活動
日本建築家協会近畿支部兵庫地域会
地域まちづくり委員長